

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名 みやき町立三根東小学校

1 前年度
評価結果の概要
・全体的に、どの項目についても目標を達成することができていた。各担当者が企画・立案した計画について、全校が一丸となって取り組むことができた成果といえる。今後も、取組の良かった点は継続していきたい。
・授業中進んで自分の考えを発言している点についての児童評価が低かった。児童が、自信をもって自分の考えを表現したり主体的・意欲的に学習に取り組んだりできるように、学習過程に発表の場を必ず設定するようにしたり、ICTを活用したりするなど授業の工夫に努めている。
・「先生は自分のよいところを認めてくれている」という点の評価が中間評価より低くなっていた。「自分にはよいところがある」と自己肯定感をもち、いろいろなことに自信をもって挑戦していけるよう、「ほめるから はじめる はじまる」を常に意識しながら組織的に指導や支援にあたっていきたい。

2 学校教育目標
「夢にチャレンジ東っ子～みんなでつくろう 成長する三根東」

3 本年度の重点目標
・ 確実な学力向上、個別最適な学びと協働的な学びの推進と児童の自己肯定感の向上（学びづくり部）
・ 心の安心を育む学校風土の確立と豊かな体験活動の充実（人づくり部）

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○普段の学習の中で、自分の考えを持ち、書いたり話したりして表現できたと回答した児童が70%。 ○児童の学習内容の定着に向けて、授業力向上に努めたという教職員が90%。	・自分の考えを表現しやすい学級の雰囲気づくりと協働的な学びの充実を取り入れた授業改善を行う。 ・校内研究等を通じて互いの授業を参観するなどし、日頃から授業の改善点などを互いに伝え合う。	B	・校内研究に課題意識を持って参加している教員が90%以上であったが「よくあてはまる」と回答した教員は50%にとどまっているため、日頃から指導力向上について対話をしていきたい。 ・自分の考えを持って取り組んでいると回答した児童は89%であった。取り組みに取り組んでいることも伺えるため、さらに児童を励ましながらの取り組みが必要である。				梶山・内堀	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活アンケートで、豊かな心を育む項目において、肯定的な回答をした児童の割合が90%以上。保護者90%以上。	・「人権集会」や「命を考える日」の取り組みを通して、一人一人の人権や命の大切さを実感させる。 ・異学年交流体験、保護者や地域人材を活用した授業を実施する。 ・保護者や地域の方々への道徳授業公開「ふれあい道徳」を実施する。	B	・中間アンケートでは、肯定的な回答をした児童の割合が90%、保護者の割合が87%で、児童の結果よりも保護者の結果の方が低かった。取り組みを通して、児童へ伝わっているものの、実際の生活に生かしていくことに課題が残ると考える。 ・今後実施する集会等をより効果的なものにし、異学年交流や地域交流、ふれあい道徳の実施を推進していく。				中村・大久保	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等において、学校いじめ防止基本方針に基づき組織的対応ができていると回答した教職員の割合が80%以上。	・いじめの認知・認知に対するマニュアルの見直しを行う。 ・月1回生徒指導連絡協議会を行い、児童理解といじめの早期発見に努める。 ・なかよしアンケートを年間5回行う。	A	・中間アンケートでは、学校いじめ防止基本方針に基づき組織的対応ができていると回答した教職員の割合は100%である。今後も、月1回の生徒指導協議会等で早期発見に努めていきたい。また、なかよしアンケート後の、各担任による教育相談の充実も図りたい。				原口・内堀	
	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・B5M23年度の学校行事や学級活動の中で「出番・役割・必勝」運動に全職員で取り組み、よさを認めて褒め、充実感や意欲を高めることができるようにする。 ・学期ごとに学習面・生活面のめあてをもたせ、それを意識して進めさせるようにする。 ・道徳等で、「夢」や「なりた」自分」に関する取り組みを実施し、それに向けて努力しようとする気持ちを向上させていくようにする。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」の質問に肯定的な回答をした児童は、84%であった。引き続き、様々な場面で、児童のよさを見つけて認める言葉をかけしていきたい。 ・「自分がんばることを決め、ねばり強く取り組むことができていますか。」「質問に肯定的な回答をした児童は、89%いた。今後も、様々な学習や行事等で、目標やめあてをもたせたり取り組ませることで、将来の夢や目標をもったり、ねばり強く取り組んだりする力を身に付けられるようにしたい。				吉富・久保山	
	○児童の自己肯定感の向上	・学校生活アンケートで自分にはよいところがあると思う子どもの割合が75%以上 ・「心のタイム」等で、「光るところ見つけ」カードを年間8枚以上書き添える。	・年6回の「なかよしアンケート」に自己肯定感に関わる項目を入れて実施する。 ・各学級でほかほか言葉や「光るところ見つけカード」などでみんなの前で紹介し、称賛するように取り組む。 ・年8回の「こころタイム」による光るところ見つけ活動や教職員(生活面)保護者(学校行事)による承認活動に取り組む。	A	・「先生はよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は84%であった。引き続き「光るところ見つけカード」を活用していきたい。 ・授業参観時に保護者に「光るところ見つけカード」を書いてもらったことは、効果的であった。				中島・久保山・香月	
	●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●早寝、早起き、朝ご飯の取組ができていると回答した児童の割合が80%	・早寝、早起き、朝ごはんの啓発を年2回実施する。 ・7月に食生活アンケートを実施し、実態を把握する。 ・11月に朝ごはんの実践シートを実施し、家庭へ啓発を行う。	A	・むし歯保有者の保護者に治療啓発書を担任から直接手渡しができ、啓発ができた。 ・歯科衛生士による歯ピ教室を9月に1年・5年対象に実施できた。 ・6月に早寝早起き朝ごはんのポスターを作り啓発した。 ・早寝早起き朝ごはんの紙芝居を各学級で後期でみせる予定にしている。 ・食生活アンケートを行い分析を行った。 ・11月に朝ごはんの実践シートを実施予定				大久保・田中
●「安全に関する資質・能力の育成」		●「安全に気を付けて生活をしている。」と回答した児童80%以上。 ●防犯ブザー所持率90%以上	・歯科衛生士によるブラッシング指導(歯ピ教室)や歯の講話を実施する。 ・交通安全指導、登下校指導を通して、児童の安全への意識を高める。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・校務の内容の工夫・精選、全職員のペーパーレス化、終了時刻を明確にするなど効率的に職務を遂行する。 ・全職員で協働的に教育活動を行い、時間外勤務時間の削減に取り組む。 ・長期休業中の行事や職員研修等の組み方を検討する。	A	・1学期間(4月～7月)で、時間外在校等時間の上限(1月45時間)を守れた教職員は約90%であった。また、「勤務時間を意識し、計画的・効率的に働くことができた」に肯定的な回答した職員の割合は93%であった。在校時間を意識した職務遂行ができているといえる。 ・2学期は大変な学校行事も控えているため、全職員で協働的に取組をしていく。				教頭	
	○教職員の心身の健康を支える職場環境づくり	○気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員80%以上。	・相談しやすい職員室の雰囲気づくりをする。 ・職員が休みを取りやすい体制の工夫をする。	A	・「気持ちよく働くことができた」に肯定的な回答をした教職員は100%で目標を達成することができた。今後も職員が休みを申請した際の補充体制の整備や、相談しやすい職員室の雰囲気づくりに努めたい。				教頭	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する校内研修を年に2回以上行う。 ○特別な配慮が必要な児童に組織的に対応できたと回答した教職員が90パーセント以上。	・配慮が必要な児童への理解を深めるために、年度初めと夏休みに研修会を実施する。 ・月に一回以上職員全体で共有する場を設ける。 ・場合に応じてケース会議を開き、外部機関との連携も通して改善策を検討していく。	A	・特別な配慮が必要な児童に組織的に対応できたと回答した教職員の割合は100%である。そのうち「よくあてはまる」という回答割合は71%であった。 ・他校での研修を全職員に行い、特別支援教育についての知見を広げた。 ・ケース会議、外部機関等の連携を積極的に行った。				高岩・中尾・岩橋	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○読書活動の推進	○児童の豊かな読書力を推進する。	○「進んで読書をしたと思う児童の割合が80%以上」 ・読書の目標冊数を達成した児童90%以上	・読書推進のため、学級担任による児童への呼びかけを強化する。 ・図書館祭などのイベントを行い、図書館の魅力を発信する。 ・100冊読んだ児童やおすめの本30冊を読んだ児童を紹介や掲示により、意欲を高める。	A	・学校評価の「図書館で本をたくさん借りて読んでいますか。」「の項目で84%の児童が「当てはまる」と回答しており、目標は達成できている。 ・学年ごとにおすめの本30冊を提示した表を作成し、読んだ本にシールを貼る取り組みを始めた。可視化することにより、読もうという意欲が出てきている。				原口・中村	
○地域とともにある学校づくり	○保護者・地域・関係機関、幼保小との連携	・教育活動の充実のため、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたと回答した教職員80%以上。 ・学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えていくと回答した保護者80%以上。	・学校だよりや各学年からの「お便り、ホームページ」等で、教育活動の様子を伝える。 ・地域人材リストや地域連携カリキュラムを効果的に活用する。 ・幼保小で情報を共有し、教育活動に生かしていく。	A	・「学校だよりや学級通信、ホームページ等を通して学校教育目標や学校の様子を知りやすくなった」という問いに、肯定的な回答をした保護者は98%であった。 ・「情報発信を密にし、保護者等との連携を図っている」という問いに肯定的な回答をした職員は93%であった。今後も地域や関係機関とも更なる連携を図っていきたい。				教頭	
●・・・共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育										

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望
・
・
・